

平成26年度 アカデミー推進計画進行管理表

政策・施策 【基本構想上の位置付け】	大項目	コミュニティ・産業・文化	中項目
アカデミー推進 計画における分野	6 分野別横断プロジェクト		
1 現状と課題・基本的な方向性			
<p>個々の事業を単独で行うことについても、集中して事業の内容を追求できるという利点があるが、ひとつのテーマに向けて、全分野が関連する部門を担当し、区民や関係団体等と協働して重点的に取り組んでいくことも、区民の豊かな生活への向上につながる大切な視点である。関連分野が総合的に事業を進めることで、事業の魅力促進や対外的なPR効果等が大いに期待できる。</p> <p>また、プロジェクトの担い手として、区民や各団体等に対して、積極的な周知やPR活動をするなど、事業のプロモーション活動をより充実させていくことが、今後の課題の一つとなっている。</p>			
2 事業実績			取組状況結果資料ページ
(1) 徳川慶喜没後100年記念事業			
(2) 2013年東京国体開催準備			
3 事務事業評価対象事業(※)			
事業名	事業の概要		指標達成度
該当なし			
※事務事業評価:「文京区基本構想実施計画」に掲げる事務事業の進行を管理し、事業の達成状況を評価するもの。			
4 分野別評価			
<p>参考: 24年度評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 鷗外150年記念事業に関して、多様な部署・団体が連携し、ダイナミックな事業展開ができていく点について評価できる。 ・ 2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催に向けて、アカデミー推進部の枠を超えた大規模な連携、協力を図る必要がある。 ・ 評価を実施するにあたって、本計画における「分野別横断プロジェクト」の位置づけをより一層明確にする必要がある。 			
平成25年度評価			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 徳川慶喜事業に関して、区民団体との協力を経て事業規模が拡大していった等、区が仕掛けたこと以外で波及効果があった点について評価できる。今後は、さらに若者の興味を惹くような仕掛けができるかという点ではないか。 ・ 東京国体のPRについて、ゆるキャラである「ゆりーと」を活用したことによって、別の角度からイベントを盛り上げ、効果的なPRをすることができたのではないかと評価できる。 ・ 東京国体では、ボランティアが限られた方のみになってしまった点が課題として挙げられる。2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、ボランティア育成や大学連携、地域で実施されているスポーツ事業や大会との効果的な連携等に力を入れる必要がある。 ・ 2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、「オリンピック・ムーブメント」を目標に据え、オリンピックの財産を子供たちにいかに伝えていくか、一般の方にもどのように理解してもらおうかといったことが重要ではないか。また、オリンピックはファンファーレ等音楽との関わりも深いので、有効に活用するとよいのではないかと評価できる。 ・ 推進計画の中に分野別横断事業の明確な目標がないため、計画上の位置づけや運用上のスタイルについて、あらかじめ定めておく必要がある。 			